

大熊町復興の基本理念 《第二次復興計画・復興まちづくりビジョン》

資料3-8

避難先での安定した生活
(町民生活支援)

2本柱

帰町を選択できる環境づくり
(町土復興)

平成30年度を目標とし、大熊町復興拠点(大川原地区)に「住める環境」を整備

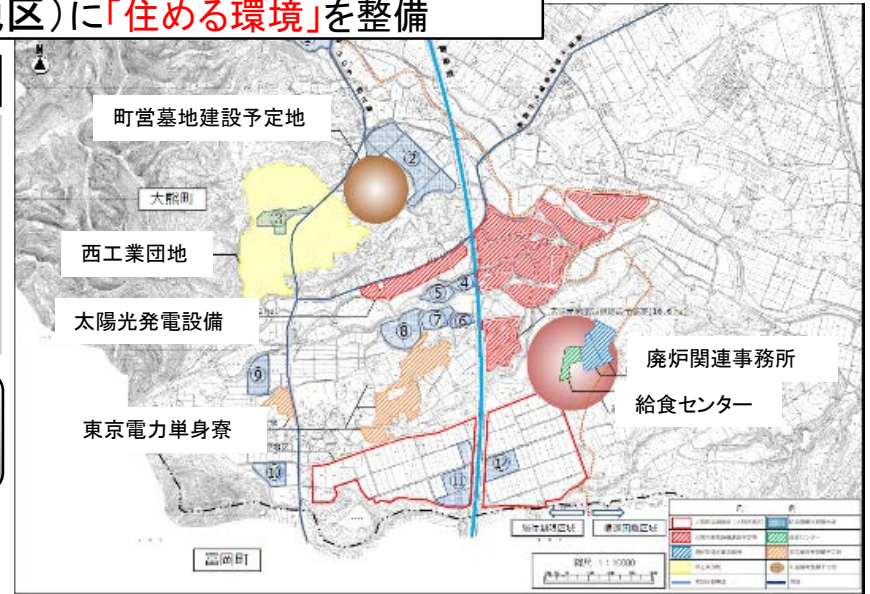
~2年後(H28.4~H30.3)

大川原地区のインフラ整備完了

~4年後(H30.4~H32.3)

復興を加速化する産業・研究機関等の誘致
居住に向けた基礎環境の整備
行政機能の立ち上げ等

大熊町復興拠点(大川原地区)は町土復興の第一歩
大川原地区を皮切りに段階的な町土復興



大川原地区復興整備計画図

大川原地区

事業の意義

- 原子力災害地域の円滑な復興・再生に貢献し、福島県の復興・発展を牽引する先駆的な複合拠点
- 東日本大震災・原子力災害の教訓と、再建・復興過程の国内外への発信

事業コンセプト

- 自然と調和したスマートシティ
- 町民や研究者・従業者等の安全確保のための防災機能
- 住民相互の交流機能
- 国内外の英知を結集した除染・廃炉関連技術の研究開発機能
- 次世代技術・産業を育む産業・業務機能

誰もが安心・快適に
暮らせるまちづくり

複合的機能を持つ
魅力ある拠点形成

事業目的

大川原地区では、給食センター、太陽光発電、企業事務所(2社)が稼働し、東京電力単身寮が整備済である。

大熊町復興拠点(大川原地区)のまちづくり

まちづくりの方針

【土地利用の配置】

- ・ 帰還町民のための居住地と、除染や廃炉、環境等の研究者・従業者等の新住民の居住地を整備
- ・ 行政サービス、医療・福祉、商業など生活の中心として暮らしと交流を支える賑わい拠点を整備
- ・ 福島第一原発とのアクセス性を考慮し、除染や廃炉、環境等の後方支援に係る機能を整備
- ・ 安心・安全に居住できる環境の提供のため防災機能を整備

【道路ネットワーク】

- ・ 将来、国道6号及び常磐富岡ICへのアクセスも強化

<大川原地区の一団地復興再生拠点市街地形成施設>

事業スケジュール(想定)

- ・ 平成29年度に事業予定地の用地取得
- ・ 平成29年度に工事着手、大熊町道に接する地区北側から先行的に整備し、平成29年度末に一部完成
- ・ 平成29年度に新庁舎整備事業に着手、平成30年度中に完成予定
- ・ 平成29年度に復興公営住宅並びに商業施設等の基本計画の策定

大川原地区の現状

- ・ 平成28年度に上下水道(農集排)復旧完了
- ・ 平成28年度に地デジ難視聴対策事業が完了
- ・ 西工業団地の整備に向けた検討を開始 等

周辺の状況

- ・ 下野上地区について先行して約95ha、追加約52haを除染中
- ・ 平成30年度中に大熊追加IC(常磐自動車道)の供用開始予定
- ・ 平成31年度中にJR常磐線の全線開通予定 等

